

シーバードJAPANカレッジ

2024

報告書

本事業は2020年度より、シーバードJAPAN拠点に所属する隊員の勉強会と位置づけ、マリンレジャー、スポーツに関するコンテンツに加え、人としての成長に役立つ内容を意図し積み重ねてまいりました。

シーバードJAPANカレッジとしては、初めての1会場開催とし全拠点に出席を募った結果、北海道から鹿児島まで32拠点、41名の隊員の出席がありました。シーバード本部より活動総括、2025年度の方針説明を皮切りに、二日間にわたって安全に役立つ情報とシーバードJAPANの中期展開を視野に入れた構成として、隊員からは実り多い二日間との評価をいただきました。

(ご来賓)

海上保安庁交通部安全対策課（大井良司課長 全4名様）

第七管区海上保安本部（真部克彦交通部長 全4名様）

福岡海上保安部（高橋謙慈交通課長 全3名様）

（一財）日本海洋レジャー安全・振興協会（江口 満理事長）

* 協力：ミス日本協会

2024ミス日本「海の日」の有馬佳奈さんに司会進行を務めていただきました。

開催日 2024年11月28日(木) 開会14:00-17:30閉会予定
11月29日(金) 開会9:30-12:00

会 場 明治安田ホール福岡
〒810-0801福岡市博多区中洲5丁目6-20 明治安田生命福岡ビル1階

主 催 シーバードジャパン(NPO法人 パーソナルウォータークラフト安全協会)
共 催 公益財団法人 日本財団
協 力 海上保安庁 交通部／第七管区海上保安本部／福岡海上保安部
ミス日本協会 司会進行 2024年ミス日本「海の日」有馬佳奈



シーバードJAPANカレッジ 2024

プログラム

〈1日目〉11月28日(木)

14:00	開会	2024ミス日本「海の日」	有馬 佳奈
	主催団体紹介		
	来賓 ご紹介		
	開会 挨拶	NPO法人パーソナルウォータークラフト安全協会会長／シーバードJAPAN代表	竹長 潤
	来賓 ご挨拶	海上保安庁 交通部安全対策課 課長	大井 良司 様
	来賓 ご挨拶	(一財)日本海洋レジャー安全・振興協会 理事長 (公財)日本ライフセービング協会顧問	江口 満 様
	シーバードJAPAN2024年度活動報告 2025年度活動方針	NPO法人パーソナルウォータークラフト安全協会会長／シーバードJAPAN代表	竹長 潤
	休憩		
	講演 水上オートバイを用いた救助技術の今とこれから	(一社)ウォーターリスクマネジメント協会 理事長	今西 淳樹 様
	シーバード拠点活動報告【1】	シーバード福岡 代表	門谷 千秋 様
	【2】	シーバード釜石 隊員	金野 有紗 様
	シーバード2025年度事業提案	シーバードサーフ90横浜 代表	佐藤 謙 様
17:30	記念撮影／閉会		

〈2日目〉11月29日(金)

9:30	開会	有馬 佳奈		
	講演1	海難事故の最新状況と対策	海上保安庁 交通部安全対策課 海難防止対策官	丸山 恭平 様
	講演2	ココヘリマリン導入に向けた実証報告と今後の展望	AUTHENTIC JAPAN株式会社	加藤 崇 様
		休 憩		
	講演3	PWCエキスパートガイドMAPについて 概要と今後の展開	合同会社TPSP代表	長谷川 辰 様
	講演4	クラウドファンディングの現在	株式会社Prodotto代表	熊澤 陽香 様
11:45	閉会 挨拶	NPO法人パーソナルウォータークラフト安全協会会長／シーバードJAPAN代表	竹長 潤	

シーバードJAPANカレッジ 2024

出席一覧

シーバード拠点・隊員一覧は次頁

来 賓

敬称略

海上保安庁 交通部 安全対策課

課長 大井良司

海難防止対策官 丸山 恭平

主席海難調査官 今井 征司

マリンレジャー安全対策係 田口 遥

第七管区海上保安本部

交通部長 真部 克彦

交通部 安全対策課長 西山 巖

安全対策課 安全対策第一係長 足立 義友

安全対策第三係 谷山 隆

福岡海上保安部

交通課長 高橋 謙慈

安全対策係長 村上 靖太郎

地域海難防止対策官 横尾 太郎

(一財)日本海洋レジャー安全・振興協会 理事長

(公財)日本ライフセービング協会 顧問

江口 満

講演者

オーセンティックジャパン株式会社 加藤 宗

合同会社 TPSP 代表 長谷川 辰

Prodotta株式会社 代表 熊澤 陽香

一社)ウォーターリスクマネジメント協会 理事長 今西淳樹

主 催

NPO法人 パーソナルウォータクラフト安全協会

会長 竹長 潤

副会長 三好 弘哲

副会長 平澤 一寿

副会長 船倉 嘉一郎

九州地方本部長 伊藤 敬一

東北地方本部長 小原 聡一郎

九州地方本部 事務局長 藤井 明

中部地方本部事務局長 安藤 秀明

関西地方本部事務局長 瀬戸 彩花

本部事務局長 高山 浩明

本部事務局オブザーバー 小林 直人

シーバード構成団体

NPO法人 日本青バイ隊 理事長

理事長 山口 富士夫

事務局長 坂口 亜紀

一社)ウォーターリスクマネジメント協会

理事長 今西淳樹

一社)ミス日本協会

和田優子

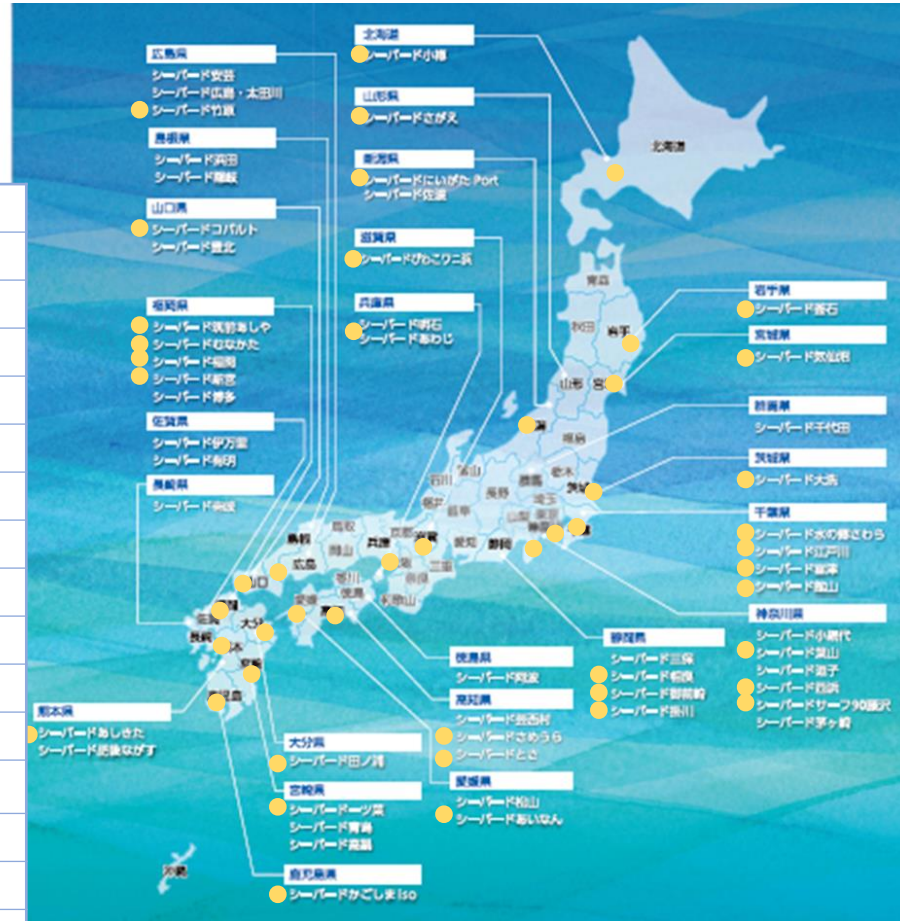
2024ミス日本「海の日」 有馬佳奈 *司会進行

日本財団調査チーム

シーバードJAPANカレッジ 2024

出席拠点・隊員一覧

北海道から鹿児島から
32拠点 41名(男子35 女子6)



1	北海道	シーバード 小樽	大平拓司	
2	岩手県	シーバード 釜石	金野有紗	活動発表
			佐々木良衡	
3	宮城県	シーバード 気仙沼	高橋紀久	パレヒコ
4	山形県	シーバード さがえ	丹野浩之	鈴木信也
5	新潟県	シーバード にいがたPort	星野幸男	
6	茨城県	シーバード 大洗	飯田英樹	福田東一郎
7	千葉県	シーバード 水の郷さわら	石川浩史	
8		シーバード 館山	辰野方哉	
9		シーバード 富津	古賀健一郎	古賀清美
10		シーバード 江戸川	鈴木英之	
11	神奈川県	シーバード 葉山	加藤智美	
12		シーバード サーフ90藤沢	佐藤 譲	活動提案
13		シーバード 西浜	石井 誠	
14	静岡県	シーバード 掛川	増田一樹	
15		シーバード 相良	福島 稔	
16		シーバード 御前崎	増田洋樹	

17	滋賀県	シーバード びわこワニ浜	川田学美	
18	兵庫県	シーバード あわじ	節和 香	
19	広島県	シーバード 竹原	山村道信	中田善方
20	山口県	シーバード コバルト	新名文博	柴田想太
21	高知県	シーバード さめうら	辻村幸生	
22		シーバード とさ	中澤辰志	吉末達弘
23	愛媛県	シーバード あいなん	清水良一	
24	福岡県	シーバード 筑前あしや	東 克之	
25		シーバード むなかた	小野義明	北條大助
26		シーバード 新宮	田原幸佑	
27		シーバード 福岡	車 康二郎	活動発表
			門谷千秋	
28	熊本県	シーバード 肥後ながす	嶋田正忠	
29		シーバード あしきた	松本祐輔	
30	大分県	シーバード 田ノ浦	尾田智史	
31	宮崎県	シーバード ーツ葉	尾崎慎司	
32	鹿児島県	シーバード かごしま iso	濱 一洋	

シーバードJAPANカレッジ 2024

主催者挨拶

2024年報告と2025年度基本方針



シーバードJAPAN代表
NPO法人パーソナルウォータクラフト安全協会会長
竹長 潤

ご来賓 挨拶

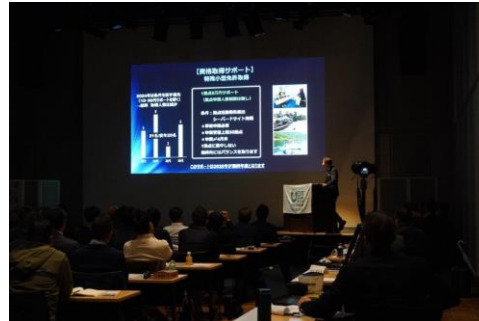


海上保安庁交通部安全対策課 課長
大井良司 様

ご来賓 挨拶



(一財)日本海洋レジャー安全・振興協会 理事長
(公財)日本ライフセービング協会 顧問
江口 満 様



司会進行



2024ミス日本「海の日」の有馬佳奈さん

シーバードJAPANカレッジ 2024

講演 / 発表プログラム

1日目 11月28日(木)

ウォーターリスクマネジメント協会 理事長
今西 淳樹 氏

『水上オートバイを用いた救助技術の今とこれから』

活動報告
シーバード福岡（福岡県） 車 康二郎 氏

『ふくつ子どもビーチフェスティバル
シーバードデー2024』

活動報告
シーバード釜石（岩手県） 金野 有紗 氏

『海遊びワンデイキャンプ × シーバードデイ』

2025年度活動提案
シーバードサーフ90藤沢（神奈川県） 佐藤 譲 氏

『第1回シーバードジャパンPWC技術交換会』

2日目 11月29日(金)

海上保安庁交通部 安全対策課 海難防止対策官
丸山 恭平 様

『マリンレジャーの現状と安全対策について』

オーセンティックジャパン株式会社
加藤 宗 様

『シーバードジャパンと作る未来
水難者早期救助の仕組みを日本全国へ』

合同会社TPSP
長谷川 辰 様

『PWCエキスパートガイドMAPについて 概要と展開』

Prodotto.株式会社 代表 熊澤 陽香 様

『クラウドファンディングの現在』

シーバードJAPANカレッジ 2024

講演1日目11/28

ウォーターリスクマネジメント協会 理事長
今西 淳樹 氏

『水上オートバイを用いた救助技術の今とこれから』



一般社団法人ウォーターリスクマネジメント協会 WRMA

◎水上オートバイレスキュー法 普及のあゆみ

(一般社団法人ウォーターリスクマネジメント協会)

◆これまでの15年 これからの15年

初動 「準備」 5年	拡散・プロモーション 「定着」 10年	内容の成熟・確立 「実務・実用」 10年	公務機関 「定着」 民間 「新たな産業」 5年
2009年 ・水上オートバイ レスキュー法の 手技の整理 ・指導メニューの 確率 ・必要機材の準備	2014年 ・消防機関を中心に導入がはじまる (1か所に1艇) ・個人申込から公務機関予算の申込へ 移行がはじまる ・まずは、水上オートバイレスキュー法の 存在と価値・意義を認知、理解してもらう	2024年 ・公務救難機関の所属艇数を実務的な2艇 以上の体制にする(1か所に2艇) ・講習訓練指導に対し公務機関予算 の恒久化 ・水上オートバイレスキュー法だけではなく それに関わる包括的な水難救助法の 指導内容に格上げする ・救助法にとどまらず、警備安全保障への 導入をすすめる	2034年 ・消防、警察、海保、自衛隊等へ 水上オートバイの導入を完了 ・民間の新たな産業として 水上警備安全保障を構築する (利益を望める一定の産業へ)
2039年	2039年	2039年	2039年

シーバード福岡(福岡県) 車 康二郎 氏

『ふくつ子どもビーチフェスティバルシーバードデー2024』

後援 福岡市
協力 福岡海上保安部
京橋消防本部福津消防署
福岡県立水産高校
福岡サントラリアライフセービングクラブ
トヨタ自動車九州
福岡信用金庫
ふくおかFUN イナフォレストスタジオ
J-SPACE あそびアート
うみずたじお34 SEAGULLINN



ふくつ子どもビーチフェスティバル
シーバードデー2024



2024年7月28日
一般社団法人 水辺フィットネス協会

1

シーバード釜石(岩手県) 金野 有紗 氏
『海遊びワンデイキャンプ × シーバードデイ』

半島部先端へ



2025年度活動提案

シーバードサーフ90藤沢(神奈川県) 佐藤 譲 氏

『第1回シーバードジャパンPWC技術交換会』

提案の主旨

PWCを用いた

最新のレスキュー技術を習得しよう。

PWCを常に良好な状態に維持しよう。

シーバードJAPANカレッジ 2024

講演2日目11/29

海上保安庁交通部 安全対策課 海難防止対策官
丸山 恭平 様
『マリンレジャーの現状と安全対策について』

【目次】



1 マリンレジャーの海難の現状

(1) 船舶事故の現状

(2) マリンレジャーに伴う人身事故の現状

2 現状を踏まえた安全対策

(1) ウォーターセーフティガイドについて

(2) シーバードジャパンとの連携について

シーバードジャパンと作りたい未来
水難者を早期救助する仕組みを日本全国へ



- ①発信機：隊員活動時に持参
携帯・受信機での安全管理
- ②受信機：ココヘリマリン会員の遭難時
救助要請への体制・仕組みの構築
出動に関して日当支払するなど



オーセンティックジャパン株式会社
加藤 宗 様
『シーバードジャパンと作る未来
水難者早期救助の仕組みを日本全国へ』

合同会社TPSP 長谷川 辰 様

『PWCエキスパートガイドMAPについて 概要と展開』

●TPSPの活動



・ TPSP東京安全講習会

水上バイクユーザーに対し、東京港・湾・河川における安全航行への心構えやルール・マナーの遵守徹底のため、安全講習会を開催。
また、安全講習会を受講し、その趣旨と目的に賛同し、TPSP東京会員として**水上バイクの安全航行とルールおよびマナー遵守に努めることを誓約**していただいた方に、修了証を発行。



修了証の発行後に
■ ビブス購入またはレンタル
■ ビブスを着用していないと
利用できない施設がある。
東京夢の島マリーナは
ビジター利用、給油がNG。

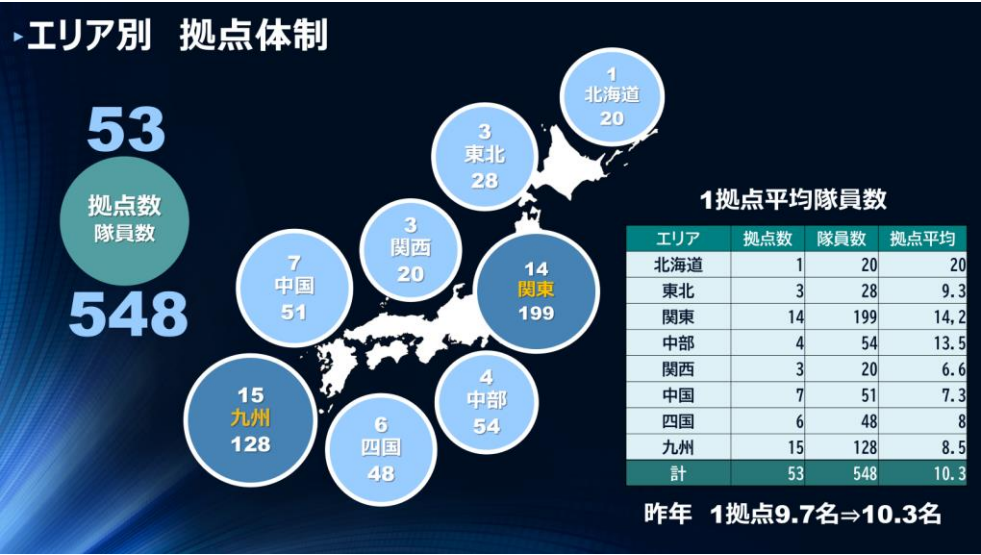
Prodotto.株式会社 代表 熊澤 陽香 様
『クラウドファンディングの現在』

テーマ

1. クラウドファンディングとは
2. 資金の集め方
3. 支援者/購入者のメリット
4. 海をテーマとしたプロジェクト
5. 【想い】に共感してくれる仲間を集める
6. 今日からできること



エリア別 拠点体制



シーバードDAY

実施拠点 35/53

35拠点開催/開催回数68回
参加者総数2,450名（うち子供達の参加1,224名）
コア開催会場（シーバード福岡・シーバード伊万里）



人材育成サポート

特殊小型操縦士免許取得支援（受講料サポート）

活用拠点 20/53

20拠点21名が取得 平均年齢28.2歳 最年少16歳（一ツ葉）
10代/20代 13名



拠点名	人数	拠点名	人数
小樽	1	御前崎	1
釜石	1	びわこ湾二浜	1
気仙沼	1	コバルト	1
にいがたPort	1	さめうら	1
富津	1	あいなん	1
江戸川	1	とさ	1
掛川	1	むなかた	1
葉山	1	伊万里	2
西浜	1	田ノ浦	1
相良	1	一ツ葉	1

全国各拠点活動

日本最大のマリニイベント出展と協力

* ジャパンインターナショナルポートショー2024



Water Safety Village出展

第三管区海上保安本部と合同 救難救助デモ実施

地域コアマリニイベント/行政連携出展

* 関西ポートショー・フローティングポートショー

* みなとまつり神戸/マリニカーニバル

* 九州ポートショー



各イベント会場にて行政・自治体連携の上出展
シーバード艇をアイキャッチ・活動紹介

メディア対象露出展開

* UMI協議会 マリニ体験イベント

* ラジオ番組 シーバードジャパン紹介



メディア対象イベント「海イコ」マリニ体験乗船会

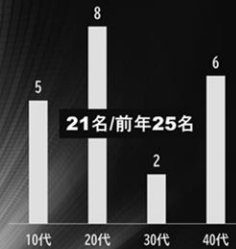
福岡県ニッポン放送

2025年度基本方針（抜粋）

シーバードJAPAN代表
NPO法人パーソナルウォータクラフト安全協会会長
竹長 潤

【資格取得サポート】
特殊小型免許取得

2024年は条件を若手優先
（10・30代サポートを厚く）
→結果 取得人数は減少



1拠点5万円サポート
（拠点申請人数制限は無し）

条件：拠点活動報告提出
シーバードサイト掲載
*事前申請必要
*申請受理上限30拠点
*申請メ4月末
1拠点に集中しない
最終的にはバランスを取ります



このサポートは2025年が最終年度となります

2025 基本方針

水辺を楽しむすべての人のために

強い思い&行動

強い心と力が命をつなぐ

シーバードDAY開催サポート

原点：拠点として取り組み易く
安心安全/予防の観点を

1. 開催日はフリー選択（各拠点ベストの日を選択）
2. 実施コンテンツ：子供達への安心・安全啓発メニュー必須織り込み
3. 『エントリー』：開催写真・レポート必須
画像提供：『参加者：子供さんの笑顔』
4. サポート額 5万円
5. コア開催拠点決定 東西2拠点
開催経費補填（上限アリ）
ミス日本協会協力：ミス日本の方々の当日運営サポート



【PWC技術講習会】

配備艇10年 各社モデルも進化
最新技術・伴うメンテ方法含めて学ぶ必要性あり

追加配備/厳しい状況下・
現艇の最適なメンテによる中長期使用を見据えて

2025年：テストスタート/関東にて開催

継続：全国展開化へ
YouTube配信

- *使用後の基本ケア
- *年次メンテナンス
- *冬季/長期保管メンテ
- *運用上の注意（適切な取り扱い・異常の早期発見）



水難救済会『救難所』登録の推進

救難所 全国に約800箇所・登録者5万名
年々高齢化、年間350・400名が毎年減少
シーバードジャパン拠点の救難所登録は基本歓迎
水上オートバイの機敏性が有効であることは認識

【大枠の仕組み】



- メリット
- *公的救難機関“場”の認知
- *救難機材供与（活動に必要な備品関係）
- *訓練実施費用・救助出動手当他
- *会費要→活動時傷害保険対応
- 義務
- *要救助要請時の出動（可能な範囲）
- *年会費要 ※保険

<特別編> 子供用ライフジャケット提供

水辺で楽しむ子供たちにライフジャケット着用を

1拠点上限20着
12月20日までに本部申請ください
在庫無くなり次第終了
1月中に各拠点配送

ご提供：AUTHENTIC JAPAN（株）様



！船舶検査用 型式承認『桜マーク』製品ではありません

予告

シーバードジャパンフォーラム開催

主に人材育成を目的としたシーバードジャパンカレッジはその役目を一応終えたとして2024年をもって終了
新たに来年はシーバードジャパンフォーラムを開催予定

開催時期：2025年11月

開催会場：東西2か所

開催内容：

- ◆基幹情報の提供
- ◆シーバードジャパン事業総括
- ◆次なる展開・進化の道筋
- ◆新たな事業展開・新しい枠組説明



救急救命と訓練



体験乗船



パトロール



PR活動



イベントサポート



自然環境保全

